

令和 4（2022）年度改善・向上方策に関する
現時点（令和 5 年 9 月 30 日）における回答について

自己点検評価委員会委員長
中野 尚美

令和 4（2022）年度自己点検評価報告書から抽出された以下の改善・向上方策に関する現時点（令和 5 年 9 月 30 日）における回答は、以下のとおりです。

基準 2. 学生

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

【専攻科】

外部業者による入学経緯調査の分析結果に基づいて、広報戦略を立て募集活動を行うなど志願者を増やす更なる取り組みが望まれる。

【回答:ST 広報 WG】

外部分析業者による入学経緯調査の結果明らかとなったペルソナ像に基づき、どのような広報活動が効果的であるかについて、ST 広報 WG と外部分析業者のほか、HP 制作業者も加わり検討を重ねた。その結果、ST 専攻科の入学者属性を鑑み、HP での訴求をさらに強化するという方針を立て、まずは、Web 検索時の SEO 対策及び Google PAA に表示されることを目標に、ST に関する 100 の Q&A を作成することとし、計画的に進めているところである。

このほか、令和 5(2023)年度募集の専攻科案内では、ペルソナ像を意識したページの作成や見出しの工夫を行った。また、令和 5(2023)年 12 月には ST 専攻科教員による公開講座を企画し、保育や教育分野、大学生などに向けて広報活動を行う予定である。

【大学院】

安定した入学定員の確保のため、本学校友会での具体的な広報活動の検討が望まれる。

【回答:大学院運営会議】

令和 5(2023)年 5 月 21 日に開催された校友会で大学院部会の設置が承認され、大学院部会主催で PT・OT・ST に関連した講習会を行った。この講習会の中で大学院の紹介も行う。令和 5(2023)年 9 月末時点で、10 月 21 日「大学院部会講習会:人工膝関節全置換術後のリハビリテーション」、12 月 9 日「大学院部会講習会:脳卒中後片麻痺患者の装具療法」という内容の講習会の実施を決定している。

2-2-② TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実

【学部】

学生生活アンケート等を通じてオフィスアワーの活用実践状況を継続して調査することで、引き続き効果検証し改善につなげることが望まれる。

【回答:大学運営会議】

令和5(2023)年度においても学生生活アンケートを通じてオフィスアワーの活用実践状況を調査した。今後、アンケート結果を分析し、活用実践状況が低い数値の場合、「学生満足度アゲ隊」とともに改善向上に努めていく。

2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

大学近隣に大学の運動施設がないことから、講義支援システム(Moodle®)を通じて、全学生が近隣の運動施設に関する情報を得られるように調整をしているが、学生の近隣施設の利用状況を調査をし、現状と課題の把握に配慮されたい。

【回答:大学運営会議】

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各部活、コロナ前と比較して、活動が活発的になってきた。5類移行から約半年後を経過する第4Q 初め頃に、近隣施設の利用に関する調査を行う予定にしている。

基準3. 教育課程

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

【学部】

アドミッション・ポリシーを満たしていないと自己評価する入学生の存在や学修への動機付けを早期から如何に高めるか、学修習慣をいかに早期に身につけるかという課題に対する初年次教育や授業内容の工夫を期待したい。

【回答:教学委員会】

初年次における教育の工夫に関して、1年生の語彙力向上を目的とした漢字テスト(医療用語集)を導入している。また、入学前と入学後の状況について、関連性を確認する基礎データとして、入学前教育 OHSU ドリルの4カ年分析を運営会社へ依頼し、12月5日に報告を受ける予定となっている。

アクティブラーニングに繋がるような授業内容の工夫について、理学療法学専攻においては臨床ゼミナールⅠにおいて、少人数グループにより自ら目指す職業について、調べ学習とグループワークを実施している。また、現在臨床にて理学療法士として従事している卒業生へ質問する機会を設けている。さらに、理学療法士について考える事や、興味のある分野について調べるなどの職業理解の向上や新たな疑問に対する能動的な調べ学習を継続して実施している。作業療法学専攻においても、ホームルーム等を用いて、教員との関わりを増やすとともに、作業療法の職業理解を深めるような取り組みを進めている。

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

【大学院】

脳神経疾患身体障害支援学領域のみならず、運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学領域、認知・コミュニケーション障害支援学領域、健康生活支援学領域の修了生についても、学修成果の客観的な点検・評価として、大学院生本人および所属する医療機関の上長に対して本大学院修了後にアンケートを実施し、客観的な評価が行えるように改善されたい。

【回答:大学院運営会議】

令和5(2023)年3月末に修了生に対してアンケートを行い、また令和5(2023)年8月末に修了生に対しては修了後半年を経過した時点でのアンケートおよび修了生の施設長に対するアンケートを実施した。第三者評価である施設長アンケートの結果はいずれも良好なものであった。これらのアンケート結果は、令和5(2023)年度大学院アセスメントプランに反映されている。